

平成26年10月14日

京都大学吉田南構内発掘調査における 弥生時代前期水田の発見について

遺跡名：吉田(よしだ)二本松町(にほんまつちょう)遺跡

所在地：京都市左京区吉田二本松町（京都大学吉田南構内 吉田グランド南側）

調査機関：京都大学文化財総合研究センター（担当：伊藤淳史・笹川尚紀）

調査期間：平成26年6月30日～12月中旬（予定）

- ・ 京都大学国際人材総合教育棟建設に先立ち、予定地約1500㎡の発掘調査を実施中です。今回、弥生時代前期後葉（約2300年～2400年前ごろ）の水田遺構、関連する水路、当時の地形などを、非常に良好な状態で検出しております。成果の重要性に鑑みて、現地説明会を開催し、ひろく現地の状況を紹介するものです。
- ・ 主要成果である弥生時代前期水田は、小区画水田と呼ばれる、畔で小さな短冊状に区画したものです。1994年に南側の人間環境学研究科棟建設に先立つ調査でみついているものの連続部分で、今回はその北縁部と、水田に流入する水路状遺構が新たに見つかりました。これにより東側をのぞく水田範囲が確定するとともに、水利系統の様相を知ることができました。
- ・ 弥生前期の水田は、同じ京都大学の北部構内、北白川追分町遺跡で見つかりますが、京都府下ではその2例のみにとどまります。近畿地方以西の西日本では、いくつか事例が知られておりますが、今回の事例は、弥生前期末ごろのごく一時期と想定される洪水砂層に覆われたもので、田面や周辺地形の遺存状況が当時のままとみられるきわめて良好な状態をとどめているとみられる点、資料価値の高いものといえます。弥生時代前期という、列島に於ける水稻農耕導入期の水田造営技術や知識を知る上で重要な情報を提供する、意義深い発見と考えています。